

玉光堂ぎよくわうだうの腰かけこしの松まつ

元亀年中（一五七〇〜一五七二）、葦名盛氏が、会津本郷町の大川の西にある向羽黒山に、お城を築きました。そのとき、糟尾宗頤かすおそうえという医師を連れて来て、住まわせました。そこを、それから宗頤そうえんというようになりました。弘化二年にあちこちに置いた休み石には、「宗頤町えんまち」と印されています。

また、お弓新田と俗に言っている上荒井新田かみあらいしんでんの辺には、お弓隊を住まわせたところから、お弓新田というようになつたといひます。

糟尾宗頤かすおそうえが守り本尊ほんぞんの極楽地蔵尊ごくらくじぞうそんは、大同年中徳一大師とくいちたいしの作といひ伝えられており、宗頤えんにおまつりしてありました。

ところが、次郎水じろうみずといわれる大洪水が、寛永年中にあり、地蔵尊じぞうそんをまつつてあつたお堂